

2012.12.09 第 11 回院生ミーティング議事録

日時：2012年12月9日（日）11：00～14：20

場所：大学生協杉並会館 地下会議室 B105・106

参加者：M2：12名、M1：9名、B4：1名、D：1名、OB：1名、事務局：1名

【議事録】

【報告事項】

1. 参加者挨拶

参加者の自己紹介と簡単な近況報告

2. 活動報告

1. 副代表選挙結果

<2013年度 副代表>

信任投票により、1名信任

2. 全国院生委員紹介

東京ブロックから2名選出のうち、1名決定

3. セクション活動報告

◆動物セクション

11/23（金）14：00～『第3回 動物園で動物と戯れよう』

4. 『議会議案事前検討会議』『東京ブロック運営委員』

日時：11月10日（土）10：30～13：30 14：00～18：00

場所：大学生協杉並会館 地下会議室

5. 第3回 東京ブロック大会

日時：12月1日（土）11：00～18：00

場所：武蔵大学

第一部⇒エリア運営委員会（南・総武・武蔵野・北甲）

第二部⇒ブースセッション（各生協やブロックからポスターの展示）

※院生ミーティングもポスター発表に参加

第三部⇒全大会（ブロック総括や方針、事例報告など）

6. 各大学院生企画の進捗

◆埼玉大 院生クリパ企画

日時：12月20日（木）18：30～20：30

参加費：1,000円

内容：立食パーティー、ビンゴ大会、IM紹介、埼玉大新歓スタッフ募集

広報：ポスター、メールなど

目的：院生同士の交流の場をつくる

◆学芸大 新歓企画

来年4月に院生の新歓企画を開催予定

現在、専務や学生委員と相談中

◆東工大 新歓企画

来年度の院生新歓企画を立案途中

3. 秋の院生交流会振り返り

1. 活動報告

<秋の院生交流会概要>

テーマ：院生の life planning ～みんなこれからどう生きる？～

日時：11月17日（土）10：30～17：30

場所：東京工業大学 大岡山キャンパス 第一食堂

内容：OBOGによるパネルディスカッション

意見交換会およびポスター発表会

参加者：院生33名、OBOG7名、生協職員・事務局4名

<企画立案にあたって>

「交流」ベースの企画内容を含みながら、参加者の将来に有益となるような「相談会・意見交換会」を行うというコンセプトのもと交流会を企画した

<問題点>

内容を研究系や就職系などの企画にすると、交流系企画に比べて参加者が集まりづらい

2. 秋交流についてのグループワーク

テーマ：研究・就職系企画で参加者を集めるにはどうしたらいいか？

どのようにしたらニーズに応えることができるか？

※グループワークで出た意見については概要参照

4. 院生 Style Book 2013

1. 今後のスケジュール

12/12 入稿／12/21 仮印刷／12/26 最終入稿

1月上旬 印刷／1月中旬 発送予定

発行部数：16,000部

2. 添削作業

仮原稿をもとに、全員で添削作業を行った

→修正版を入稿前に再度 T-inseiML に流す予定

5. まとめ・お知らせ・今後の予定

<セクション>

◆第7回 即興術セクション ～インプロで就活対策～

日時：12月16日（日）14：00～17：30

場所：大学生協杉並会館 地下会議室

<生協企画>

◆埼玉大院生クリパ企画

日時：12月20日（木）18：30～20：30

場所：埼玉大学

◆平和見学会

日時：1月26日（土）

<東京ブロック・各運営委員・全国院生>

◆全国大学生協連56回通常総会

他、全国活動交流セミナー等

日時：12月15日（土）－16日（日）

場所：名古屋国際会議場

概要

3. 秋の交流会振り返り

1. 活動報告

<企画立案にあたって>

コンセプトを「交流」ベースか「議論・相談・発表会」にするかが争点となった。

就活が始まる M1 と来年度社会人となる M2 のニーズを満たすには、相談会や話し合いの場であることが望ましい。しかし、相談会や話し合いを中心とした交流会では、参加者を限定的にしてしまう恐れがある。

⇒そのため、「交流」ベースの企画内容を含みながら、参加者の将来に有益となるような「相談会・意見交換会」を行うというコンセプトの交流会を企画することにした

2. 秋交流についてのグループワーク

<グループワークテーマ>

研究・就職系企画は参加者が集まりづらい

⇒参加者を集めるにはどうしたらいいか？

どのようにしたらニーズに応えることができるか？

【G1】

- ・参加人数が少ないのは、真面目系企画であることだけが原因ではない
→企画の系統だけではなく、広報の仕方や企画内容などの全体を見るべき
- ・そもそも、スタッフは充実感を得られていたのか？
→夏交流は「交流」メインであったため、秋交流はある程度方向性が決まっていた
そのため、スタッフがやりたいことを出来ていたのかという懸念がある
スタッフが楽しんで企画できなければ、参加者にも楽しんでもらえないのではないかと

【G2】

- ・参加人数 40 名は、結果的によかったのでは？
→スタッフのキャパを考慮すると、むやみに増やす必要はない
- ・IM とその他の参加者の意見を分けてアンケートの報告を行って欲しい
→IM 内部以外の参加者のニーズを知ることができる
- ・企画書を見せて欲しかった
→どういう経緯で企画したのかを知ることができれば、アドバイスがしやすくなる
※企画書は T'inseiML には上がっていた

【G3】

- ・OBOG 相談会は大好評

→もっと接する機会があってもいい

- ・ 広報の表現をもう少し柔らかくした方がいいのでは？

→固い表現だと、参加しづらいと感じる人もいるかもしれないので、気軽に参加できるような表現を使うとよいのではないか

Ex. 「OBOG のパネルディスカッション」 → 「OBOG と話しませんか？」

- ・ Facebook ページがあった方がいい

→繋がりやすいし、気軽に見られる

※IM としては、FB ページは作成しない方針：そのため、秋交流では作成しなかった

But.作成から削除までの管理をしっかりとやるのであれば、交流会ごとに作ってもいいかも

- ・ 秋交流の時期は、「M1 は就活前なので、就活の役に立つ企画がいい」「M2 は修論前なのでリフレッシュしたい」というように、M1 と M2 でニーズが分かれてしまう問題がある
- ・ 就活系企画にした場合、開催日が大手就活イベントと被っていれば、参加者はそちらに流れてしまうが、リフレッシュ企画であれば、日程が被っていてもこちらに来てくれる可能性があるのではないか

【G4】

- ・ 今年度は、「春：交流」「夏：交流」「秋：研究・就活系」という形にしたので、ひとつの例を示すことができた

特に、夏場に交流系企画を行ったのは初の試みであったため、今後の参考になる